



国際会長 (IP) Isaac Palathinkal (インド)

“Talk less, Do more”

「言葉より行動を」

アジア地域会長 (AP) 岡野 泰和 (大阪土佐堀)

“Start Future Now”

「未来を始めよう、今すぐに」

東日本区理事 (RD) 田中 博之 (東京)

「誇りと喜びをもって」

“With Pride and Pleasure”

湘南・沖縄部部長 (DG) 峯尾 舜 (金沢八景)

「一人は皆のために、皆は一人のために」

“One for All, All for One”

横浜クラブ会長 (CP) 天野 皓司

「YMCA とともに、地域社会に根差した活動を」

“Activities rooted in the Local Community with YMCA”

会長 天野 皓司
副会長 高杉 治興
書記 伊藤 誠彦
会計 古田 和彦
直前会長 松島 美一

監事 舟田 正夫
ブリテン 高田 一彦
担当主事 青木 一弘

＜今月の聖句＞

「富める青年」

今村 讚

すると、ひとりの人がイエスに近寄ってきて言った、
「先生、永遠の命を得るためには、どんなよいこと
をしたらいいでしょうか。
イエスは言われた、「なぜよい事についてわたしに尋
ねるのか。よいかたはただひとりだけである。
もし命に入りたいと思うなら、いましめを守りなさい。
彼は言った、「どのいましめですか。
イエスは言われた、「殺すな、姦淫するな、盗むな
、
偽証を立てるな、「父と母とを敬え」。
また自分を愛するように、隣り人を愛せよ」。
この青年はイエスに言った、「それはみな守ってきました。
ほかに何が足りないのでしょうか」。
イエスは彼に言われた「もしあなたが完全になりたいと
思うなら、帰ってあなたの 持ち物を売り払い、貧しい人
に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。
そして、わたしに従ってきなさい」。
この言葉を聞いて、青年は悲しみながら立ち去った。
たくさんの資産を持っていたからである。

マタイによる福音書 19章 16節～22節

今月のひとこと

「古稀を迎えて」

遠藤 喜七



本年、古稀を迎える年齢となりました。生まれて70年、人生、顧みますれば、光陰矢の如しと言いますが、本当に早いものです。若い時は、じぶんの欲望に、思いを通し、結婚してからも、やりたい放題の人生で、親、

家内、身内、友人に心配かけた我儘な自分であったと反省しきりです。自分一人で大きくなったような、考え違いに反省しきりです。私の強い自分！！

縁あって、ワイズに入会させて頂き、奉仕活動を通して、今までの人生において、自分の触れ合う多くの方々の力添えで、生かされている自分に気づかさせて頂きました。肉体も、若い時とは違い、何かと気づかう今日この頃です。お陰様で現役で、仕事をさせて頂き、お客様を信じ、感謝と、思いやりの心で日々仕事に精を出させて頂いております。

自分の課題として、まず、自分の健康管理に重点を置き、毎月、健康診断を受け、医師の指導の下に、体調を整えて過ごさせて頂く事です。精神面では、「こうあるべき」と言う、執着を捨て、何事にもとらわれず、そのまま私は、「今、こうなのだ」と受け入れる事にしています。

どうしても、物事を見るとき、無意識のうちに、善悪で物事を判断してしまいます。頭の中で、考えや、感情で埋まってしまうと、人の思いを感じとるスペースがなくなり、自分自身や周りが見えなくなります。本当の自分がなくなり、感

情に縛られ身動きがとれなくなってしまうのです。そして、変化する現象に振り回され、安心出来ない自分でした。

無意識な発言、行動と言うのは、ときに人に迷惑をかけたか、人を傷つけてしまう事が、度々、ありました。

今後は、いつも、自分自身を見つめ、内省しようと努力しているところです。感謝の心を忘れず、いつも奉仕の心で、そして、自分の過去にこだわらず、必要以上に先々の事を心配しないで、今を、集中して、心を波立たせないよう、いつも心を静めるよう、平和な心で、そして、廻りも平和になるような自分になるよう、精進させていただきます。

<2015年4月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
17名 (功労 会員1 名を含 む)	メ 14名 メネット 2名 コメント 0名 ビジター 0名 ゲスト 2名 合計 18名	94 % (メキヤップ 1名を含む) 前月修正出席 率	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 2,443g 現金 0円	

<5月の行事予定>

EF/JEF

日	曜	時間	行事内容	場所
22	金	14:00	横浜クラブ第二例会	上郷 森の家
22	金	15:00	横浜クラブ一泊例会	同上
30	土	17:00	横浜YMCA会員総会	とつかY

「4月例会報告」

伊藤 誠彦

日時：4月9日（木）18:30～20:20

場所：横浜中央YMCA501号室

出席者：青木、天野、池山、伊藤、今村、遠藤、押川、メ、金子、神村、メ、高田、成瀬、舟田、古田、松島
ゲスト：大江浩氏（同盟）、益聡氏（横浜Yスタッフ）

舟田ワイズの司会により、天野会長の開会点鐘で定刻に開始。ワイズソング、ワイズ信条唱和、田口総事を代行して青木ワイズによる聖句。続いて、ゲストが紹介された。

青木ワイズによる食前感謝、食事の後、益さんによる「横浜YMCAの高齢者プログラム」と題する卓話が始まった。



卓話中の益さん(右端)

益さんは昨年暮れの忘年会に出席いただいたので、多くの人には顔馴染みだ。

益さんが周到に用意し説明して下さった内容は次の通り。

横浜YMCAの数々のプログラムの一つに「高齢者支援・地域福祉」活動がある。その一環として介護保険事業などを①大和YMCAライフサポートセンター、②鶴見中央地域ケアプラザ、③生麦地域ケアプラザ、④YMCAライフサポートセンター鶴見、⑤YMCAライフサポートセンター関内の5施設で展開している。

①～③の施設は「地域包括支援センター」として市から委託を受けた公的な相談窓口サービスを、又、要介護者のケアプランを作成する「居宅介護支援サービス」を提供している。

利用者が通所介護施設で食事や入浴などの日常生活機能向上を目指す「デイサービス」(①、②施設が提供、以下同じ)や認知症対応型共同生活介護である「グループホーム」(①)などの介護保険サービスを提供している。

地域ケアプラザでは介護保険サービスと保険外のサービスを一体的に供給し、地域の人に福祉・保健に関する「地域活動・交流」の場も提供している(②、③)。

ライフサポートセンターは「小規模多機能型居宅介護」を提供している(④、⑤)。利用者が自立した日常生活を送ることができるよう、施設への“通い”を中心として、短期間の“宿泊”や利用者宅への“訪問”を組合せ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で生活支援や機能訓練を行う。今後の介護の在り方として“施設”から“在宅”へと転換するために設けられた比較的新しい介護事業だ。益さんはライフサポートセンター関内に勤務されている。

ビジネスでは、一泊研修会の紹介、東日本区大会への参加要請などがあつた。また、野村さん、保坂さんの3月末での退会・転会、池山さんの当日付での退会報告があつた。

(本日のロバ献金：14,600円)

<第3回部評議会>

伊藤 誠彦

日時：4月25日（木）14:00～15:30

場所：横浜中央YMCA501号室

ほぼ定刻に開会。定足数を確認後(出席者16名、委任状13通)峯尾部長が司会と議長を兼任で(山田書記欠席のため)議事に入った。

第1議案(次年度部役員の選任)：今城次期部長より6月の第4回評議会最終決定する旨の説明があつた。

第2議案(東日本区大会の現況)：厚木クラブ堀田会長より参加予定者は現在321名、目標は400名との説明あり。峯尾部長より厚木大会への協力要請があつた。

第3議案(YMCA東山荘100年募金)：次年度改めて検討する。

第4議案(今年度CS事業についての報告)：今城地域奉仕事業主査より報告があつた。

第5議案(Y-Y's合同新年会会計報告)：谷口会計より収支差額の部会計負担は1.5万円との会計報告があり承認された。

その他、東日本区大会のための種々の資料提出の要請が各クラブに対してあつた。また、クラブ状況報告の中で沖縄クラ

ブ伊藤事務局長より次年度会員数が10～15名に激減する見込みであるとの気掛りな報告があった。

第4回評議会は6月20日(土) 10:00～

横浜クラブ出席:伊藤

東日本YMCA理事・常議員・総主事研修会報告

金子 功

去る4月25日(土)第18回東日本地区YMCA理事・評議員・常議員・総主事研修会が湘南とつかYMCAで開催され、東日本地区の9YMCA並びに、日本YMCA同盟の代表者75名が参加した。札幌YMCAは残念ながら欠席であった。今回は横浜YMCAが主管とあって山田尚典理事長初め8人のレイパーソンと総主事他14人のスタッフが参加した。

全体進行役は田口総主事。相賀昇牧師(つづきクラブ)の司式による開会礼拝に続き山田理事長の挨拶で開会された。

今回のテーマは、YMCAの事業が福祉領域に幅広く展開されつつあることから「福祉社会の形成とYMCA」と設定、基調講演を阿部志郎先生よりいただいて「この時代における、今必要とされるYMCAの働き」について学習した。

会場は6～7人づつのグループに分かれるテーブル設定で、昼食はそのグループごとに崎陽軒のしゅうまい弁当を食べて懇親を深めた。

午後は、日本YMCA同盟が推進する中期計画—YMCAブランドの再生—について、日本YMCA同盟理事の中道基夫氏から講義を受け、それについてグループ毎に各YMCAの状況について意見・情報交換をした。中道氏が強調する「オールジャパンYMCA」の革新構想が強く印象に残った。

研修会は、茂木雄横浜YMCA理事の閉会の挨拶の後、YMCAの歌を参加者全員で斉唱して定刻の16:00に終了した。参加34名のレイパーソンのうちほぼ半数がワイズメンであったのは心強い限りであった。

「春に想う」

成瀬 澤史



寒さで血圧が急上昇し、ビクビク縮こまっていた季節も無事過ぎ去り、一年で大好きな4月、5月を迎えました。晴れた朝、子供の頃、決闘させて遊んだ蜘蛛一鈍なババが庭のツツジの葉で日向ぼっこしていたり、精悍で俊敏なホンチが軽

快に飛び跳ね動き回っているのを見ているだけで嬉しくなって元気が出ます。もっとも5月は調子に乗って油断するせいか此れまでに二度も脳出血を起こしているので気を付けねばと思います。

4月最初の日曜日、家の近くの根岸公園へ桜を見に行きました。曇り空でありましたが、数百本の桜が満開で壮観な眺めの下、沢山の人がレジャーシートを敷き、お花見を楽しんでいました。桜の一日は人間の10年位に当たるのかなと思いますが、これ程までに日本人が桜に魅了されるのは精一杯生きていさぎよく散っていくのを願っているからでしょうか。

私が好きなのは公園の裏の誰も訪れない広場に立つ一本の山桜です。8年前、戸塚病院に入院していた母を先生の許可

を得て妹と一緒に、母が卒業した桜が丘中学(現在に桜が丘高校)付近の桜並木の丘を雨の中ゆっくりドライブしました。車中で朗らかに陽気に振舞っていましたが突然黙りこみ淋しげな表情にもなりその3カ月後にこの世を去りました。

「サイトウ・キネン」

神村浩正



皆さんご存知と思うが桐朋学園で教鞭をとった斎藤秀雄氏を記念するサイトウ・キネン・フェスティバルが毎年8～9月に松本で開催される。このフェスティバルは小澤征爾の呼びかけで始まったものと思うが、小澤征爾を慕う人が世界

各地から参集する。

昨年のフェスティバルの様子はNHKで放送されたが、演奏前のインタビューで小澤征爾がオーケストラの指揮について次のような主旨の話があった。どんな曲でも作曲家が何を感じ何を表現したいかさまざまであり、また演奏する方も何を感じ何を表現したいかさまざまである。オーケストラの場合指揮者とその曲の作曲家の楽想と言うか何を感じ何を表現したいかを感じとり、それをオーケストラのメンバーに伝えなければならない。それに納得し指揮者の思いを全力をもって表現すれば優れた演奏となる。このインタビューの後の演奏は素晴らしいものであった。

小澤征爾の何かを伝えたいという気持ちが全身にあふれている。何年前であったかウィーンのニューイヤー・コンサートで小澤征爾が指揮をしたときに強く感じたのであるが、先ずオーケストラのメンバーに「貴方たちのように優れた音楽家と演奏するのは嬉しい。一緒に素敵な音楽を創ろうよ・楽しもうよ。」という気持ちがありありと伝わる演奏であった。指揮者としての力量は勿論であるが、このような人柄がサイトウ・キネン・フェスティバルにも多くの外国人演奏家にも参加しようという気持ちにさせるのであろう。

サイトウ・キネンと言っても外国の人には通じないので来年からにはセイジ・オザワ松本フェスティバルと名称を変更するそうである。

この放送の翌週であったと思うが同じNHKでアルメニア出身のハチャトリアンによるベートーベンの「バイオリン協奏曲」の放送があったが、これも素晴らしいものであった。演奏前のインタビューでアナウンサーの問いに如何にも気の乗らぬ感じの返答をしていたが、演奏を聴くとその理由が分かった。この人は演奏にすべてをつぎ込み神の世界に近づく心境になるそうだが、「さもありません」と思われる演奏であった。

私は音痴と言ってもよい人間であり、音譜が読めないのは勿論、歌も下手だが、聞くのは好きで会社を定年退職する際の記念品に何がいいかと聞かれて、CDを所望し、現在では欲しかったCDは殆どそろっている。

第二例会報告

松島 美一

日時: 4月23日(木) 17:00～18:00
場所: 中央Y 501号室

出席者：青木、天野、伊藤、今村、金子、高田、古田、松島、齋藤宙也（ビジター）。

協議・確認事項

1. 熊本スピリットクラブ齋藤宙也氏がビジターとして出席、横浜クラブおよび出席者の紹介をした。
2. 4月～6月のクラブ行事の予定確認。
3. 東山荘100年募金は既に東日本区、個人として応募しているの、横浜クラブの醸金はしばらく様子を見ることとした。ロールバックマラリア（RBM）への協力要請を受けたが、横浜クラブはすでに¥14,400の募金をしているので追加は見送ることとした。宮古ボランティアセンターへの献金につき盛岡YMCAの礼状が披露された。
4. 6月第1例会での卓話を高橋亮横須賀市民サポートセンター館長（横須賀YMCAスタッフ）へ依頼したことを確認、9月以降の卓話候補者につき意見交換した。
5. 第16回東日本区大会への当クラブからの参加者につき情報交換をした。
6. 4月25日の第3回部評議会は伊藤誠彦ワイズが出席することにした。
7. ブリテン5月号の執筆者を決定した。

つながりのある被災地の方にお越しいただき現地の様子と今後の活動内容を聞く講演会、チャリティイベント、復興支援バザー、街頭募金等を行いました。街頭募金は、12カ所で行い支援募金は約90万円に上り、1年間の累計は、800万円（4年間の累計5900万円）となりました。みなさのご支援に感謝します。多くの人に思いを伝え、これからも被災地につながる機会となりました。2015年も引き続き被災地支援活動を継続していきます。皆さんのご支援よろしくお祈りします。

■横浜YMCA会員総会のご案内

5月30日（土）に、湘南とつかYMCAにて会員総会が実施されます。会員総会の前には、昨年実施された「国際ボランティア in タイ」の報告会と今年度の説明会を実施する予定です。是非、ご参加ください。

5月例会：一泊研修プログラム

日時： 5月22日（金）15：00 ～
5月23日（土）11：00

場所： 横浜市民ふれあいの里 「上郷・森の家」

第一日目 5月22日（金） 司会：高田ワイズ
15：00～ 例会・研修会オリエンテーション
開会点鐘・挨拶・ワイズソング・信条・聖句
参加者紹介、プログラム紹介
15：15～ 合同研修会Ⅰ 卓話
「横浜YMCA公益財団法人化で何が変わったか」
田口努 横浜YMCA総主事
17：00～ ビジネス、生活案内、他
18：00～ 夕食（食堂）
20：00～ 懇親会
第二日目 5月23日（土）
～8：00 朝食（各自食堂にて）
9：00～ 合同研修Ⅱ 司会：金子ワイズ
卓話「信仰・偶像・シャルリエブド」
松島美一ワイズ
～11：00 閉会

例会報告：ワイズ



右側中央が齋藤ワイズ

第二例会後の二次会は、本日出席の齋藤宙也ワイズ（熊本スピリットクラブ）を交えて大いに盛り上がった。

「弁護士研修で熊本から横浜へ戻ったのだから、是非、

横浜クラブへの入会を」と横浜クラブメンバーが熱心に勧めたが、その結果や如何に！



担当主事 青木 一弘

風薫る新緑の季節、皆様におかれましてはお変わりございませんか。すごしやすい時期ではありますが、体調を崩さないようお気おつけください。

■YMCA維持会員数 目標1500名達成！！

YMCA維持会員増強キャンペーンへのご協力に感謝致します。3月31日現在、維持会員数は、1506名となりました。皆様の熱心な声かけなどにより、目標1500名を達成することができました。この1年間、会員増強実行委員会を中心に、レイパーソン、職員、非常勤、リーダーなど横浜YMCAに関わる方々の思いが、目標達成に結びついたと思います。今後も、新規会員募集と併せ2014年度からの継続に向けての協力をお願い致します。

■「3.11をわすれない」活動報告

横浜YMCAでは、「3.11をわすれない」活動として、

6月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
6-7	土	13:00	第18回東日本区大会	厚木
11	木	16:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
20	土	10:00	第4回部評議会	中央Y
25	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは横浜YMCA青木一弘にご連絡下さい。

メール aoki_kazuhiro@yokohamaymca.org

電話 045-641-5785